

「米内光政と天皇の硯箱」

令和5年7月3日、顕彰先人のひとり米内光政について、館長講話が行われました。30名の参加者はみな、熱心に聞き入っておられました。主な内容は次の通りです。

1 光政の人間としての基礎をつくったもの

- (1) 光政 盛岡中学へ
- (2) 光政 青雲の志

2 人生の転機を呼び込んだもの

- (1) 人とのかわり
 - ①海軍軍人になる ②海軍大臣になる
- (2) 広い見聞
 - ①国際感覚 ②読書

3 国家の危機に際して

- (1) 当時の社会情勢
- (2) 日・独防共協定強化交渉に際しても
 - ①日・独 軍事同盟案の提示 ②職を賭しても阻止すべし ③内閣総理大臣として
- (3) 国家存亡の危機に直面した中でも
 - ①政府の終戦へ向けた取組
 - ②ポツダム宣言受諾を巡る攻防
 - ③8月9日の攻防
 - ④連合国回答文を巡る攻防

4 天皇の硯箱

- (1) 海軍の幕を引く
- (2) 天皇の硯箱



米内光政



昭和天皇から米内光政へ下賜された硯箱

温厚でおおらかな人間的な魅力と、広い見聞や指導力を兼ね備えた米内光政が、国家の危機に立ち向かったことの根底は「至誠一貫」という信念があったことが話されました。

参加されたみなさんの感想にも「米内光政さんがどんな厳しい決断をしたのか、戦時中の働きについて初めて分かった」「二度と戦争を起こさないためにもみんなに学んでもらいたい」といったことが多くつづられていました。

(文責 副館長)